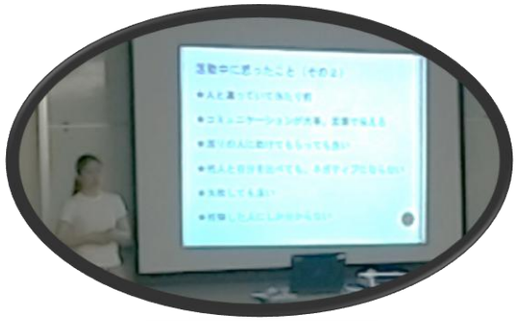
６７期生

１年生学年だより

豊中市立第五中学校　２０１８年７月１３日(金)　No.13

ＪＩＣＡ講演会



７月１２日（木）１・２限に海外青年協力隊として活動経験がある田上加奈さんをお招きし、聞き取り学習をしました。

総合学習「国調べ」の取り組みも終わりにさしかかっています。今回は、実際に海外でボランティア活動に従事された方の貴重なお話を聞くことができました。講師の田上さんが派遣された国はアフリカ大陸のウガンダという国です。

【田上さんのお話】

田上さんは父親が青年海外協力隊の経験があることがきっかけで、幼いころから協力隊の活動に興味がありました。大人になって選考試験に応募し、ウガンダへ派遣されました。赤道直下の国ウガンダの気候は過ごしやすく、夏も冬もクーラーいらずですが、都心を離れると家に水道や電気やガスがない大変不便な生活をしています。首都カンパラの街には、日本製の自動車が行き交い大変なにぎわいがあります。アフリカですが水が豊富なため農業がさかんで、飢餓で苦しんでいる人は少ないようです。

田上さんが生活していた田舎の家にはお風呂やキッチンもなく、冷蔵庫や炊飯器もないとのこと。スーパーマーケットがないので、市場にでかけ、野菜やお肉を買う生活でした。

現地の食事をしたり、かっぱえびせん味のバッタを食べてみたりと異文化を感じながら、青年海外協力隊としての仕事をこなしていきました。

ある小学校では、給食にコップ一杯のトウモロコシの粉を溶かした飲み物だけ、授業の合間に水汲みをするなど、みなさんの生活とは全く違います。

アフリカの国でも、水は大切です。

ウガンダ人が使う１日の水の量は 10Ｌ

（ちなみに日本人は 320Ｌ）

田上さんの任務・村落開発普及員の仕事は、村を回って現状をＪＩＣＡへ報告、稲作の普及、現地の方の生活向上といった仕事です。

モノをあげるだけで解決する支援は意味がないと感じて・・・失敗・つまずきから多くのことを学び、現地の人々と共にモノづくりをして、それを売り、お金を得る活動をして、１万円のウォータータンクを購入したことが大きな功績です。

中学生のみなさんには、何でもチャレンジし、経験することと、自分は自分でよいという観点を忘れずにがんばって欲しいというメッセージでした。

～生徒の感想～

【１組】

＊日本の生活が裕福に感じた。ＪＩＣＡの募金は知っていたけど、青年協力隊を派遣するのは知らなかった。

＊ウガンダは日本とは全然環境が違うのに、いろいろな人を助けるために行こうと思えるのは素晴らしいことだと思った。私もそんな人になりたい。

＊自分は自分のやりかたでよいという事を学んだことがすごいと思った。大変な仕事だけど楽しそうだなと思いました。

【２組】

＊田上さんの話を聞いて、自分達の生活と全然違うものでびっくりした。水はきれいとは言えないし、火も自分でおこさなければいけないなど、大変そうだった。発展途上国の人々の少しでも環境が良くなればいいと思った。

＊「もう来なくていいです」など悲しい言葉を言われても、小学校を訪れ、あきらめず勇気のある田上さんはすごいと思った。

＊ウガンダと日本の違いが特に心に残った。私たちにとってありえないことがウガンダでは日常で普通だと言う事に驚いた。失敗しながらも頑張っている所が本当にすごいと思った。

【３組】

＊日本は他の国と比べたら本当に充実しているんだなと思いました。もっといろんな人が透明の水を飲めたらいいなと思いました。

＊取り組み全てを成功しないといけないと思っていましたが、「１度失敗してしまった」と聞いてびっくりしました。１度うまくいかなくても、やり直せる。自分の周りのひととじっくりコミュニケーションをとり助けあうということが大切だと感じました。

＊経験者にしか味わえない話を聞いて、興味を持ちました。日本は本当に豊かな国だと改めて感じました。田上さんが村の人たちを救いたいと言う気持ちが伝わってきて、田上さんみたいになりたいと思いました。